

北川に陸封アユを

ダム上流に卵を放流 5年ぶりに挑戦

延岡市北川町の北川漁業協同組合（長瀬一己組合長）は20日、下赤調整ダム上流にアユの発眼卵約30万粒を放流した。ダム湖内でアユを育てる取り組みで、同漁協では5年ぶりの実施という。同漁協では、管理下の3分の1を禁漁区、保護区、規制区にしたり、産卵場の整備や河川環境を改善する活動などさまざまな取り組みでアユ資源を増やし、維持管理することに努めている。

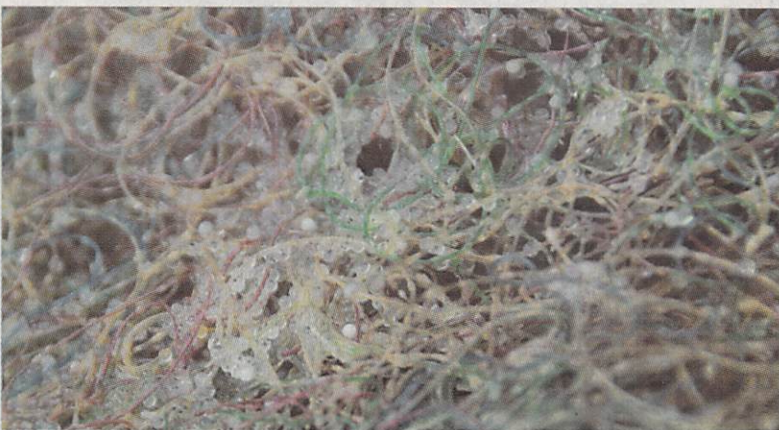
アユを増やす活動の一環として15年ほど前にアユの発眼卵200万粒を放流。その翌年には成魚となったアユの姿が多く見られ、放流の成果を上げられた経緯がある。

北川ダムの減水期の放水による濁りなどの影響で成果が見られない可能性があると、近年では放流を行っていない。しかし、「自分たちのやれることがあるなら」「少しでもアユの増加につながる可能性があるなら」と、5年ぶりに放流を決めたという。

この日は、組合員ら5人が作業に当たった。県水産試験場小林分場から取り寄せた発眼卵を持って下赤調整ダムの上流へ。魚に卵を食べられる



アユの発眼卵が入ったネットを取り付ける組合員（20日、延岡市北川町）



網に付着している発眼卵

ことがないように、発眼卵トに入れ、川幅に張ったが付着している網をネットロープに一つ一つ丁寧に

設置していった。長瀬組合長によると北川町を流れる北川と小川のアユの数は、去年が春先に北川ダムから出た濁り水によって少なかったため、去年に比べると多いという。

なにより、昔に比べると年々絶対数が減ってきている。今回の取り組みで条件を整えばアユが増えてくれるはず。来年期待するための努力です」と話した。発眼卵は、4日後ごろに孵化する予定という。